

31P-0938

薬剤師によるパキスタン洪水救援活動①

○下石 和樹¹, 原田 真理², 福永 栄子¹(¹熊本赤十字病院薬, ²武蔵野赤十字病院薬)

【はじめに】2010年7月下旬よりパキスタン各地で大規模な洪水が発生し、同国史上最悪とされる被害をもたらした。演者は日本赤十字社（以下、日赤）の要請により、現地で約3週間国際医療救援チームの一員として活動に参加した。

【活動内容】初動班での活動であったため、活動に必要な医薬品及び医療資器材の受け入れ、在庫の管理を行った。まず活動拠点である町に巨大な倉庫を借りて受け入れ態勢を整えた。倉庫といっても床はなく、医薬品を地面に直接置くことは品質管理上問題となるため、パレットを準備した。しかしながら、倉庫は当時40℃近い温度があり、湿度もかなり高かったため、医薬品については居住しているホテルの一室に保管した。次いで、入手した薬剤に対する在庫管理リストを作成した。当時は活動期間が不明であり、第2班以降に薬剤師がいるのかも不明であったため、以後の活動を見越した在庫管理システムを構築した。その他日々の診療で使用する払い出しリストの作成も行った。国際赤十字の標準として、医薬品のみならず資器材の管理には Stock card と呼ばれる箱単位の在庫管理シートを使用してきたが、被災者の病状、被災地における疾病の動向が詳しく把握できていない初動班あるいは発災後2~3ヶ月までは、できる限り詳細な在庫管理を行うことが、以後の活動に有効であると考え Excel を用いた内服1錠単位、注射1アンプル単位の管理を行った。

【考察】今回薬剤師が初動で現地でのセットアップを行うことができたため、医薬品の到着後直ちに確認作業を行うことができた。薬剤師による国際救援活動の歴史は始まったばかりであるが、今回の活動を通じて、特に発災直後の混乱した状況での医薬品管理における薬剤師の重要性を改めて実感することができた。